

平成25年度 第2回事業普及委員会 議事概要

I. 日時 平成26年1月27日(月) 18:00~20:00
場所 公益社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 向殿担当理事、今泉委員長、木村委員、高橋委員、宮脇委員
(事務局 井端事務局長、平田)

III. 検討事項

今回は主に、2013年度 No.4(3月号)の原稿の確認と平成26年度の特集の掲載企画を行った。

1. 機関誌 2013年度 No.4(3月号) 掲載原稿の確認

「特集」、「人材育成のための授業紹介」、「教育学修支援への取り組み」の3つの企画の原稿について内容を確認し、必要に応じて加筆・修正を要請することにした。詳細は以下の通り。

(1) 特集：eポートフォリオとその活用

1件目の「eポートフォリオを活用した教育改善」については、本文と図2・図3において「学習」と「学修」が混在しているため、意図的に使い分けている場合は説明を追加し、特に意図がない場合は統一するよう筆者に依頼する。

(2) 人材育成のための授業紹介：被服学

① 「デジタル教材を活用した被服教育」

教材画面の図が小さいため、レイアウトの際に拡大しわかりやすくする他、分量が規程の3ページを超えているため、後半のアンケートについては、本文は簡潔にまとめ、円グラフは表に変更するよう筆者に依頼する。

② 「顕微鏡をはじめとする分析装置の視覚化とICT活用による繊維材料系学生実験の活性化」

分量を削減するため、写真の数を減らし、写真のタイトルや説明を短くまとめるよう筆者に依頼する。

(3) 教育学修支援への取り組み

2大学のうち1件の原稿については、本文と表に提示されている設置大学名、学部・学科名を表だけにまとめる、教育支援システムに Moodle を導入した理由を本文に追記する、システム開発の企業名は外す、図の活動報告画面は記入済画面例と差し替えるなどを筆者に依頼する。

2. 平成26年度機関誌の特集掲載企画

大学関係者にとって話題性があり、情報提供も可能なテーマについて検討したところ、「アクティブ・ラーニング」をキーワードとした教育方法とICT活用の取り組み、その他に JMOOC (日本版 MOOC)、IR (がテーマとしてあげられた。詳細は以下の通り。

(1) アクティブ・ラーニングの取り組みおよび構想(6月、9月)

平成26年度の6月号および9月号において掲載を予定し、「平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業採択校補助金」の採択校で、多機能端末(タブレット端末)を導入したアクティブ・ラーニングの取り組みや、地域・産学連携の取り組みを申請している大学が多数あるため、それらの大学に状況を確認し、執筆可能であれば依頼する。

原稿は取り組み事例以外に構想段階も含めることにし、依頼にあたっては大学の規模、分野(人文、社会、理工、医療)を変えて選び、大学側の負担とならないようページ数は1ページとする。

その他、平成25年度の3月号において本企画の原稿募集を掲載する。

(2) JMOOC(12月号)

コンテンツや取り組み状況などについて、平成26年度の12月号にて掲載することを予定し、状況を見ながら今後の委員会でさらに検討する。

(3) IR 機能または電子教科書の利用 (平成 27 年 3 月号)

○IR 機能について

平成 21 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」の大学等に、大学教育の質保証を目的とした IR を通じた相互評価の意義や大学連携の取り組みについて紹介いただくこと予定した。また、米国には IR 協会があり、大学においても IR 情報がそろっているため、ハーバード大学、プリンストン大学等での取り組みについても、可能であればいずれか筆者に依頼して紹介する。

○電子教科書の利用

IR のテーマで掲載が難しい場合は、大学教育における電子教科書の利用について取り上げる。

3. 次回委員会

今回は平成 26 年 3 月 18 日 (火) 18:00 より開催し、3 月・6 月号に掲載予定の特集のアクティブ・ラーニングの原稿依頼や応募状況を確認し、必要に応じて新たなテーマを検討する。